

「風雪に耐えてこそ」

創立 50 周年記念行事実行委員会委員長

宮田 哲郎



今日の私の礎を築いてくださった愛すべき母校の 50 周年という大きな節目に、実行委員長という大役を仰せつかり、大変光栄であるとともに非常に嬉しく感じています。

さて、本来であれば令和 2 年度に 50 周年を迎え、各種記念事業を行う予定でしたが、昨今の新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い、ほとんどの事業が令和 3 年度の実施となりました。現在に至るまでも未知のウイルスによる世界への影響は止むことなく、人それぞれが様々な問題や課題に直面しながら、今を生きていることと思います。

こうした厳しい情勢に置かれた中で私の心にふと浮かぶものは、正に水戸南高等学校の校是である『風雪に耐えてこそ巨木の年輪は刻まれる』という言葉です。若輩ではありますが恐縮ながらこれまでの人生について語らせていただけるならば、日々を生きるということとはこんなにも難しいことなのかと痛切に思いを致しております。そしてその思いは今も、これからも続いていくことと感じています。ただ生きていくというだけでも、そこは風雪の連続でした。物心ついた幼き日には想像もつかなかったような厳しさが、生きるという道の上にはありました。そうした人生の厳しさや辛さ苦しさを最初に意識させてくれた言葉がこの校是であるとともに、母校の 50 周年に思いを馳せながら自らが歩んできた道筋を振り返ってみるにつけ、心に浮かぶ言葉もまたこの校是でありました。

私の人生是水戸南高等学校に入学したことで大きく変わりました。中学時代には不登校を経験し、学校という集団生活の場だけでなく生きることそのものに嫌気がさしていた自分に、改めて人と関わることの楽しさや生きているからこそ感じる事が出来る幸福や満足を教えてくれたのがこの学校での生活であり、またこの校是でした。生きるという事は厳しく、辛く、苦しいことでもあるが、それを乗り越えてこそ見えてくる希望や光がそこにあることを、私の心に刻んでくれたのです。

今、この校是がさらに重みと力強さを増して自らに寄り添ってくれていることを感じます。乗り越えてきた風雪の分だけ幹が力を増していると信じられることが、次の一步を前に踏み出す心の根拠としてそこに存在してくれるからです。いつ終わるとも分からない人生を少しでも良い景色に彩っていくためには、目の前の一步を踏み出せるかどうかで大きな違いが生まれます。そんな時、いつも必ずこの校是は私の背中を静かに押してくれます。そうやって歩いてきた今までの道のりには、たくさんの幸せや輝きがありました。これからもっと人生の彩りを増やしていくために、校是と共に、水戸南高等学校と共に、自らの歩みを進めていきたいと思っています。

最後になりましたが、この度の 50 周年記念事業の実施に伴い、ご尽力を賜りました先生方をはじめとする関係者の皆様方に厚く御礼を申し上げますと共に、水戸南高等学校の益々の発展と皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げまして、私の寄稿とさせていただきます。この 50 周年からまた次の一步を踏み出していきましょう。